２６．４．２８
杉並区広報課

杉並ゆかりの文化人アーカイブ映像作品の配信開始！

４月２８日、昨年度から区が取り組み始めた、杉並にゆかりのある文化人を紹介する映像作品が完成し、区公式ホームページで配信を始めました。この事業は、杉並にゆかりのある文化人を映像に記録し、区の貴重な文化財産として保存し後世に伝えるとともに、杉並区の文化的な魅力を区内外に発信していくもので、今回は彫刻家の橋本堅太郎さんと洋画家の佐野ぬいさんの半生が本人の言葉を中心に紹介されています。

杉並区は、かつて井伏鱒二や太宰治、与謝野鉄幹・晶子など文豪が数多く住むまちとして有名でした。そのことは、荻窪風土記や阿佐ヶ谷文士村として、名を残しています。

そんな杉並に深いゆかりのある文化人は、現在も多く在住しています。それらの文化人・芸術家に焦点をあて、後世に伝えるとともに、区内外に杉並の魅力を発信するため、区は文化人アーカイブ事業を始めました。

その第一弾として、日展理事長などを務めた彫刻家の橋本堅太郎さん（83 歳）と女子美術大学の学長を務めた洋画家の佐野ぬいさん（81 歳）を紹介する映像作品が完成しました。それぞれ、１枚の DVD に収録し、計２枚の DVD を制作しました。インタビューを通して、じっくりと人物を深掘りする 51 分の長編作品と、作家としての歩みが簡潔にわかる 17 分の短編作品を、１枚の DVD にそれぞれまとめています。この度、区公式ホームページで、それぞれの短編作品を配信開始しました。

橋本堅太郎さんは、16 歳で父親である橋本高昇氏の後を継ぎ、彫刻家になる決意をし芸大に進みますが、すべて順風満帆の芸術家人生を送ってきたわけではありません。日展では、初出展で入賞するものの２度目は落選。目標を失い全国を旅したこともあります。また、普段は聞く事のできない師である平櫛田中とのエピソードなど見応えがあります。

佐野さんは、女子美術大学卒業後、助手を務めました。その時代は、結婚や出産を契機に女性は職場を退くことが当たり前でしたが、佐野さんは断固拒否。学生たちへの指導を自分の生涯の道としてきました。そのことは、女子美術大学の学長を務めるまでになりました。また、「佐野ブルー」の背景にある生まれ故郷の青森・弘前の風景が、青を基調とする今日までの作品を生み出してきたことも理解することができます。

杉並区では、今後も杉並にゆかりのある文化人のアーカイブ事業を継続し、様々な分野の文化人・芸術家、また、その表現の軌跡を紹介していきます。これらの作品は、区図書館や区・文化交流課で DVD 貸出を行うほか、短編作品は区ホームページでも鑑賞できるようになっています。

［問い合わせ先］区民生活部文化交流課　TEL　3312-2111　内線　3051